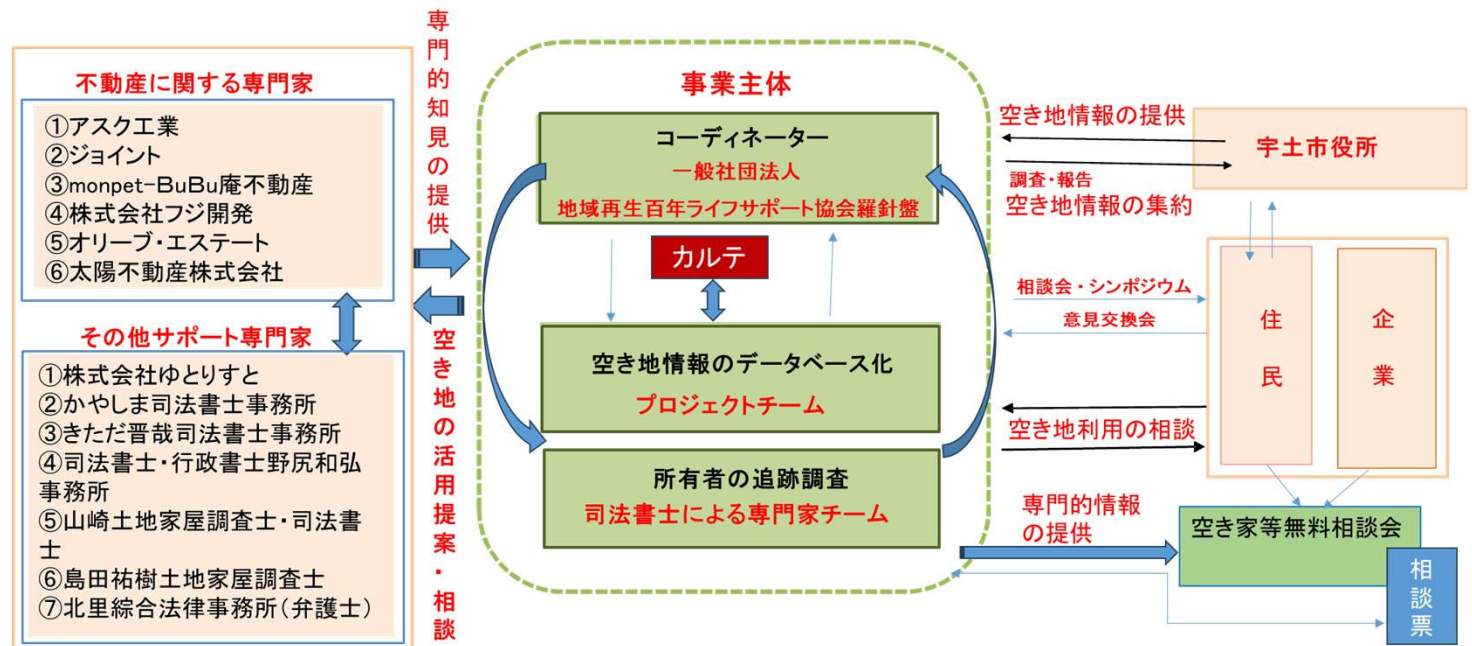


対象地域	対象地域の特性	地域が抱えている課題	主な取組内容
熊本県宇土市 花園地区（国道3号沿道）	通行量が多い国道沿いの市街地から少し離れた集落には農地が広がっているが、農業の担い手も高齢化し、後継者が不在 放置田畑、耕作放棄地も散見される	当該エリアには空き地や低未利用地もあり、市も開発意向があるが、相続人不明等により、土地収用が円滑に進んでいない。また、農地は、担い手の高齢化で耕作されておらず、所有者が分からない土地もある。	● 当該エリアにおいて、土地所有者の意向確認調査、所有者不明土地の追跡調査を実施（土地活用促進カルテの作成・所有者不明土地カルテの作成） ● 国道沿いの開発予定地の所有者の調査・探索、企業誘致の候補地検討と地域福利増進事業の検討 ● 空き地・土地利活用無料相談会、街頭相談会、アンケート調査の実施 ● 地域の空き地の利活用をテーマとしたシンポジウムの開催

事業内容・スキーム

- 宇土市と本事業の実施に係る協定を締結し、低未利用土地や所有者が分からない土地についての調査（自治会ヒアリング、所有者探索、所有者の意向確認等）を実施、その結果を踏まえて、土地利活用推進カルテ、土地不明カルテを作成した。
- 空き地・空き家の利活用や相続等をテーマとした相談会、シンポジウムの企画・運営を行った。



モデル事業による取組成果

農地所有者の意向と課題の把握

対象地域内にある農地の約3割が休耕田となっており、全体の8割の所有者は売却を希望していることが明らかとなった。また、属性別にみると、自身で農業を営んでいる所有者においても6割超が売却を希望しており、休耕田としている所有者においては9割超となっていることから、現状のままでは今後も耕作放棄地が増えていくことが懸念された。

相談会の実施

空き地・空き家相談会では、11組の相談があり、全ての組が「とても満足」「満足」と回答し、非常に評価の高いものとなった。

空き地・空き家に対する関心、課題意識が非常に高い事が伺われ、今後の所有者不明土地利用円滑化等推進法人指定への足がかりとなった。

宇土市商工会等との関係構築

シンポジウムにおいて宇土市商工会より、40～50年前に建てられた住宅地が空き家、空き土地化しているとの意見があり、商工会会員の事業承継問題等も含めて、今後は空き地・空き家対策に全面的に協力するという話をもらうことができ、商工会との関係性をつくるきっかけとなった。

取組地域の横展開

九州地方整備局からの情報提供を踏まえて山江村を訪問し、意見交換等を通じて山江村の空き地・空き家に関する課題や取組状況等を把握。山江村においても空き地・空き家相談会のニーズがあることがわかり、本事業と並行して実施することを検討した。